

福岡洋一 茨木市長との対談



【少子高齢化 - 社会保障費問題】

今、来年度へ向けた予算を編成しているところですが、やはり公共施設の修繕費や社会保障費が予想以上に増えています。本市は財政再建団体に陥った過去の経験を踏まえ、他市に先駆けて職員数カットや行財政改革に取り組んできました。それでも将来を考えるとまだまだ厳しい財政状況です。

比較的恵まれた環境にある本市でさえそうですから、国による補填がないと財政破綻が見えている自治体が数多くあるはず。しかし、国の財政も厳しくていつまで面倒を見てもらえるかわからない。

本市はまだ借金をしてもいいと国から言われていますが、将来返すアテが見込めないため借金をできる限りしないように舵を切っています。財源があればできる施策が山のようにありますが、市長として覚悟を決めて財布の紐を締めています。

ですが、それでもまだ足りません。南部地域や彩都の開発による税収増は本市全体のために不可欠です。

よく比較されることの多い隣の高槻市では既に人口減少がはじまり、本市も数年後には人口減少が予想されているので、人口減少対策に待ったなしで取り組んでいきます。現役世代の確保は、地域の担い手の確保であり社会保障費の増大を補う税収確保でもあるので、現役世代の確保が高齢者施策の充実につながります。

今繰り広げられている現役世代を自治体が取ら合う競争に本市も負けるわけにはいきません。子どもの将来を願う親にとってマイホームを購入するときに、子どもの教育環境は大きな決め手です。「教育」がカギになると考えています。これまで皆さんが熱心に教育に取り組んできた結果、本市は良い教育環境にあります。「一人も見捨てへん教育」をより充実しPRすることで現役世代をきっちり確保していきます。

少子高齢化による人口減少対策として教育の充実に加えこれから大切になると考えているのが「学生のつなぎとめ」です。毎年4月になれば立命館大学や追手門学院大学をはじめ数千人の若者が本市にやってきます。これは他市にはない何物にも代えがたい大きな財産でありチャンスです。学生が卒業してからも本市で住んで働いてもらう流れができれば、本市の持続可能性は飛躍的に高まります。取組みとしてはまだまだこれからですが、学生のうちに地域活動に取り組むと地域への愛着が高まり住みたいと思うようになるというアンケート結果もあり、最近の大学には地域貢献が求められていることも軌を一にする話です。

人手不足に悩む市内企業にとっても渡りに船な話のほうですので商工会議所にも積極的に働きかけていきます。学生時代に地域貢献活動に取り組んで、そして卒業してからも住んで働く仕組みづくりに力を入れます。

「次なる茨木」にかける思い

市制施行 70 周年をきっかけに「次なる茨木へ」というメッセージを打ち出しています。市民の皆さんに「このまちが変わっていくぞ」という期待感をもっといただきたいのと「よし！自分も！」とまちへ新しい活動へさらに一歩踏み出してもらいたい、という願いを込めています。

ご迷惑をおかけしている閉鎖されたままの「旧市民会館」を含むエリアの活用へ向けた動きも着実に進んでいます。市民会館 100 人会議など市長として様々な市民の方と意見交換してきました。

時に「人力タウン」と表現するように、地域活動でもイベントでも素晴らしい市民の方が多くて心強く魅力の一つだと感じています。だからこそ、市民の方々に活躍の場をより一層用意して「人と人の出会い」や「交流」をさらに生み出したいと考えています。もうハードでどうにかなる時代は終わりました。

「モノが人を幸せにする」のではなく「人が人を幸せにする」感性の時代です。世代を超えた出会いと化学反応が次々に生まれるまち「次なる茨木」を目指します。



各議員から市長への質問



上田 よしお
(自由民主党 茨木市支部 支部長)

Q. 茨木市の中心市街地の展望は？

A. 他市の方から選ばれる街になるには、洗練された玄関口が必要です。具体的には阪急茨木市駅や JR 茨木駅の各西口の再開発について、権利者の方々が前向きに取り組んでおられますので市として協力していきます。国や府にも積極的な協力をお願いします。中心市街地の活性化には、たくさんの方々に単なるお客さんとしてではなく主体的に活動してもらおうことが欠かせません。市内に数多くいる学生にも担い手となってもらえるよう中心市街地をデザインしていくプロセスから学生も含めてたくさんの方々に関与してもらいたいと考えています。



中内 清孝
(自由民主党 茨木市支部 副支部長)

Q. 茨木市の「救急医療充実」への展望は？

A. 救急医療体制の充実を求める声は市に届いています。三島救命救急センターの移転が具体化しつつある中、救急医療が重要なテーマの一つです。高槻には大阪医大など多数総合病院があり吹田に新しく健都ができるといった状況の中「高槻・吹田にあるから茨木にも必要」と考えるのか「高槻・吹田にあるから茨木には不要」と考えるのか判断が必要です。単純に市レベルで捉える分野ではない中、昨年からは医療政策課を設置して分析に取り組んでいます。医者の確保が社会問題化していますが本市としても小児科医の確保など救急だけにとどまらない積極的な取組みが必要と考え、水面下で様々な動きをしています。



上田 ミツオ
(自由民主党 茨木市支部 幹事長)

Q. 広域連携に関する展望は？

A. 多分、全ての自治体が可能な限り広域で連携したいという意識を持っています。本市でも北摂全体での図書館の広域利用が実現しました。断続的ではありますが近隣市と消防や上下水道、ごみ処理などの分野で連携協議を行っています。北摂市長会でも必ず何かしらのテーマで広域連携が議題に上りますし、今後も積極的に取り組んでいきます。参考になる先進事例があればぜひご教示ください。



下野 いわお
(自由民主党 茨木市支部 副支部長)

Q. 農地有効活用「里山を守る」施策は？

A. 「農業体験ファーム事業」を行っていますが、今後これを発展させ座学も含めてプログラムを充実させることで、就農へのハードルを下げます。若手の新規就農者も何名か増加し北摂での新規就農希望者がいるとの声もあがっています。さらに地元の方々とマッチングが欠かせません。水や畔の関係も地元の皆さんが築かれてきたルールや文化を理解し共有するプロセスが必要ですので就農にあたってはじっくりと時間をかけていきます。